

ステロン (T), エストラジオール (E2) 産生副腎癌の1例を報告する。【症例】44歳女性。1998年より無月経, 体毛増加を自覚, 2000年 T 増加が判明, コルチゾール, T, E2 産生右副腎腫瘍と診断, 腹腔鏡下副腎摘除術を施行し, 病理組織は副腎癌であった。【考察】副腎癌は DHEA-S 増加を認めるが, 本例は CS を合併したため DHEA-S 増加を認めず副腎癌の診断に苦慮した。

49. 糖尿病の食事・運動指示におけるパソコン活用の意義について

栗林伸一 (三咲内科クリニック)

運動制限要素の多い糖尿病の病状チェックにパソコンを活用した運動指示法を紹介した。また通院糖尿病患者479名について, 性・年齢, 身長, 初診時体重から基礎代謝量を算出して検討した。結果, 摂取量の指示には身体活動量や肥満度はもちろん, 性・年齢・過去の体重なども考慮すべきであることを明確にした。そして厳密な食事・運動指示をするためには, 煩雑な計算を簡単かつ正確に行えるパソコンの補助が欠かせないことを示した。

50. デジタルカメラを用いた栄養指導の実例

村野俊一 (下都賀総合)

我々は通院肥満患者にデジタルカメラを貸し出して2週間毎日各食事前に撮影記録させ, これを従来の食事記録と併用, 比較して栄養指導に応用した。この方法では従来の食事記録に比べて食事の量や種類をより精確に算定でき, 食事記録に適切に表現できない料理内容や食事記録の記入もれについても補完が容易であった。さらに画像を見せることで具体的な指導が可能であり, その簡便性, 有用性から今後の食事指導の有力な手段となるものと考えられた。

51. LDL アフェレーシス後の血管内視鏡について

矢吹清美, 勝部 晋, 和泉秀彰
木暮勝広, 小林淳二, 篠浦 拓
篠宮正樹 (済生会船橋)

当院では ASO 2 例, FH 7 例に LDL 吸着療法を施行している。うち 4 例で, 血管内視鏡を施行し, 3 例で黄色プラークが少ないことが判明した。不安定な黄色プラークが安定な白色プラークへと転換する程度がどの位の期間で可能なのか明らかにしたいと思っている。現在 1 例において吸着療法導入前に血管内視鏡を施行したので, この症例に再度血管内視鏡を行い, プラークの症状を検討する方針である。

52. めまいの新しいとらえ方ー高位頸静脈球とめまいー

清水美奈子, 水島秀勝, 小菅清彦
疋田 稔, 原田泰広, 川野英一郎
石原弘行, 伴 俊明 (国保国吉)
姫野雄司 (同・外科)

めまいを来す疾患の1つに, 高位頸静脈球という疾患がある。S 状静脈洞から頸静脈に移行する頸静脈球が鼓室より高位に位置する奇形で, めまいを誘発する。骨条件 CT にて外来で診断可能であり, 3D-CT にて確定診断できる。胎生期の異常であり, 根本的治療はない。繰り返すめまいを主訴に来院し, 同疾患と診断し得た症例を報告し, 考察を加える。

53. 肝内および胸骨に腫瘤を形成した骨髄腫の1例

徳山隆彦, 高橋万里子, 瀧澤史佳
佐々木憲裕, 明星志貴夫
(川鉄千葉)
藤川一寿, 播磨あかね (千大)

症例は67歳男性。主訴は胸骨部痛。精査により多発性骨髄腫 (IgG, κ -type; Stage IA) の診断となった。胸骨 MRI にて胸骨を圧排する腫瘤性病変を認め, 生検の結果から骨髄腫の腫瘤形成であった。また腹部エコーで肝内に腫瘤性病変を認め, 肝生検で骨髄腫の腫瘤形成であるとわかった。肝内腫瘤を形成した多発性骨髄腫の報告のうち, 生前に画像診断で発見されたものは極めてまれであり, ここに報告する。

54. Mini-transplant を施行した高齢形質細胞性白血病の1例

趙 龍桓, 青墳信之, 寺野 隆
(千葉市立)
中世古知昭, 西村美樹 (千大)
清水直美, 浅井隆善
(同・輸血部)

症例は68歳男性。M2 プロトコール, VAD 療法2コース施行したが反応不良。自家移植は不可能, また年齢と臓器障害の存在から conventional な同種造血細胞移植は不可能と考え, CY+Fludarabine の前処置で同胞ドナーから mini-transplant を施行した。造血回復は順調で重篤な合併症なく, 短期的には十分な抗腫瘍効果が得られた。VNTR により早期に完全キメラの成立を確認した。今後適応疾患・前処置等にさらなる検討を要する。